

事業完了報告書

調査研究期間等

調査研究期間	令和3年7月21日 ~ 令和4年3月15日
調査研究事項	<p>《委託研究Ⅳ》 ア. 教職員の配置・研修に関する事 《委託研究Ⅵ》 イ. 夜間中学における教育活動充実に関する事 《委託研究Ⅱ》 ウ. 広報・相談体制の充実に関する事</p>
調査研究のねらい	<p>ア. 他市町村の日本語学級や関西地方の先進校を視察し、実践事例を校内研修で紹介し、教職員の資質向上につながる研修にすることをねらいとする。</p> <p>イ-1. 専門スタッフ（看護師や通訳など）を活用し、昼間勤務に従事している生徒に対し、仕事と学業の両立をしていくための健康管理や風邪、感染症予防など、意識づけることをねらいとする。</p> <p>イ-2. 経済的負担を考慮した効果的な学校行事や校外活動等を充実させることをねらいとする。</p> <p>ウ. 広報活動を図るための方法、広報誌の内容・設置場所や設置方法を検討し、夜間学級における教育活動を地域に周知させることをねらいとする。</p>
調査研究の成果	<p>ア. 12月には、関西圏の先進校視察のため、2名の教員を大阪市立さつき学園へ派遣した。さつき学園は144名の生徒が在籍し、ほぼ半数弱の60名程度が登校している。在籍している教員の姿勢として、生徒一人一人の生活状況や健康状況、人権を尊重し、学校側からの登校を促すような行為はほとんど行っていなかった。この根底にあるのは、小学校と中学校をあわせて9年間在籍できるシステムの中で、個人のペースにあった学びを展開するという点であった。そして、「学校生活を体験させる」「学校にあこがれをもつ生徒を温かく迎え入れ、寄り添いながらともに学んでいく」という姿勢が各教員に徹底されていることが印象に残った。本学級においても、今まで以上に生徒の背景や現状の生活をより詳しく理解したうえで、生徒一人一人にあった授業を展開していく必要性を強く感じた。</p> <p style="text-align: center;">また、本夜間学級においては、日本語指導で使用する教材</p>

に毎年苦慮しており、教材ベースをどのように体系化していくかがここ数年の課題となっていた。そこで、今年度は日本語教育における教材の選択と方法について、元筑波大学人文社会学研究科教授を招聘し、校内研修を2回行った。今までにない試みとして、今年度は、1回目の研修で日本語学級の授業見学を実施し、現在本学級で行われている日本語授業を参観するという形をとった。昼間部の授業であれば、午後の授業見学と研修をセットにして実施する方法はあるが、夜間学級では授業が午後5時40分から午後9時までとなっているため、授業後の研修が実質上無理であった。そこで、講師の先生の授業見学日とご指導いただく日を合わせることによって、実際の授業での課題や問題点に即した研修が実施できるようになった。

特に、教材選定のポイントや授業で取り扱う項目の選定の仕方を学ぶとともに、筑波大学で管理している日本語能力の測定サイト「T T S J」を活用することで、生徒一人一人の進度にあった教材の提供をいかに一般化してすすめていくかを今後の課題として次年度以降研究していくことを確認した。

イ-1. 昨年同様、看護師による健康観察及び様々な健康教育（歯科指導、飲酒・喫煙防止指導、生活習慣病の理解とその予防に関する指導、感染症対策指導等）を予定していたが、新型コロナウイルス感染症により、看護師の確保が難しく、今年度は実施するにいたらなかった。

イ-2. 修学旅行において貸し切りバスを使用し、生徒の体力的な負担を減らし、現地での見学をより効果的なものにするために、2泊3日の行程のうち、第2日目をバス移動として、その費用をあてた。大きな効果として次の点が考えられる。

- ・高齢者や外国籍の生徒を安全かつ効率的に目的地に引率することができた。
- ・公共交通機関を活用することがなかったため、新型コロナウイルス感染症への感染予防として大変重要な役割を果たした。
- ・徒歩等での移動を極力抑えることができ、特に高齢者として体力を確保する意味でとても重要な役割を果たした。
- ・移動中のバスの中で、事前学習の確認時間を確保すること

ができ、学習内容を深めることができた。

ウ. 夜間学級のパンフレット及びポスターを制作・設置し、夜間学級における教育活動を広く周知させることを目的とした。今年度、本学級は開設50周年を迎えるにあたり、ポスター60枚とパンフレット300部を作成した。主な掲示・配布場所としては以下の通り。

ポスター…区内中学校、近隣の駅（10駅）、近隣商店街や個人商店、公共施設等

パンフレット…50周年記念式典会場、区内中学校、公共施設等

予算の執行は8月から可能となったが、周年記念式典に合わせる形でポスター及びパンフレットの作成を行った。また本学級について、地域へ広く知らせ、学びの必要な人たちがスムーズに入級できるよう、駅等へのポスターの掲示時期を2月からとした。効果としては、①各中学校より、不登校の既卒者や卒業生へ渡したいので、更にパンフレットを送ってほしいという連絡が数校からあり、また、②ポスターやパンフレットを見て、入級の連絡をしたという問い合わせが、2月末時点で15件ほどあった。実際には、今後入級希望の生徒の数は増加してくると思われる。